

第3期高知県がん対策推進計画の取組の総括について

令和5年度は、現計画の最終年度であるため、進捗状況の把握及び評価を行うとともに課題を整理し、次期計画へと繋がります。

第3期計画全体の総括

- (1) 年齢調整死亡率（75歳未満）については、計画策定時に比べ数値は改善したものの、目標には至っておらず、全国直近値67.4（R3）よりも高い値になっています。
特に、予防分野で悪化していることもあるため、引き続き、生活習慣病の予防・改善の取組推進や受診率の向上等のがん対策を実施し、死亡率を減少させていく必要があります。
- (2) がん検診の受診率は改善傾向にあるものの、肺がん及び乳がんを除き、目標の「50%」を達成していません。特に、職域のがん検診について、実施割合や受診者数などを把握する仕組みがないため、職域の実施状況を把握し、課題を整理することが必要です。
- (3) がん患者のうち7割以上が受けた治療内容に満足しています（R5高知県患者満足度等調査）が、相談支援体制や治療と仕事の両立支援などに課題があります。

第4期計画の方向性

- (1) がんの死亡者数をさらに減少させていくためには、がん検診の受診率向上が必要不可欠なため、受診率目標を60%に引き上げます。また、実施主体によらずがん検診を一体的に進めることができるよう、職域におけるがん検診について、実施状況の把握を検討します。
- (2) 高知がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会を通じる等して、がん患者や家族等への情報提供の方法や内容等について検討します。
- (3) 県の健康増進計画である「第5期よさこい健康プラン21」に基づき、生活習慣の改善に向けた取組を継続して実施するとともに、従業員の健康づくりに積極的に取り組む企業を増やしていきます。

◎ 計画の進捗状況の評価について

計画の進捗状況を分かりやすく評価するため、下記のとおり「A」から「D」の評価基準を定めました。

区分	進捗度評価の基準	件数	構成比
A	目標を達成（進捗率100%以上）	4件	22%
B+	策定時より改善（達成率50%以上100%未満）	3件	17%
B-	策定時より改善（達成率10%以上50%未満）	4件	22%
C	変化なし（達成率-10%以上10%未満）	1件	6%
D	策定時より悪化（達成率-10%未満）	6件	33%
評価計		18件	100%
-	実績値がまだ出ていないなどの理由で現時点の評価ができないもの、又は目標の設定がないもの	5件	

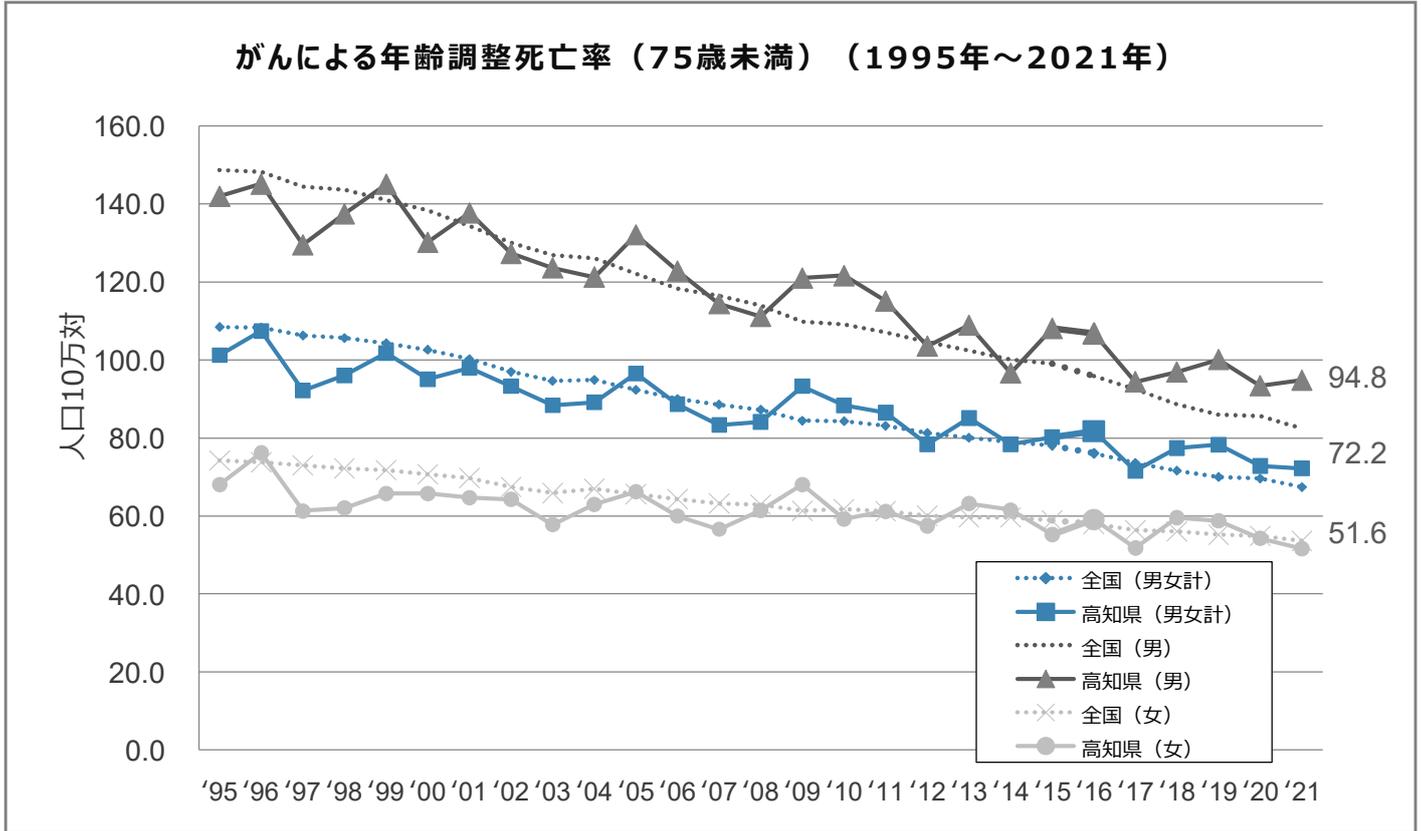
$$\text{達成率 (\%)} = \frac{\text{直近値} - \text{計画策定時}}{\text{目標値} - \text{計画策定時}} \times 100$$

※左の計算式で達成率を算出し、上記基準にて判定。

I 全体目標

(1) がんによる死亡者数の減少

目標指標	第2期計画策定時	第3期計画策定時	目標 (令和5年度)	直近の実績値	進捗度
年齢調整死亡率 (75歳未満) 人口10万対	89.4 (H21-23平均)	80.1 (H26-28平均)	20%減少 ≡ 64.08	72.2 (R3)	B-



出典：国立研究開発法人国立がん研究センター がん対策情報センター

総括

- 計画策定時の「80.1」に比べて、「72.2」と9.9%減少しましたが、目標達成には至っておらず、全国値（R3：67.4）より高い状況です。

男女別に見ると、男性は、計画策定時「103.9」に対し、直近値「94.8」と8.8%減少し、女性は、同「58.7」に対し、同「51.6」と12.1%減少しています。

女性は全国平均を上回って改善傾向ですが、男性は改善傾向にあるものの全国平均を下回っている状況です。

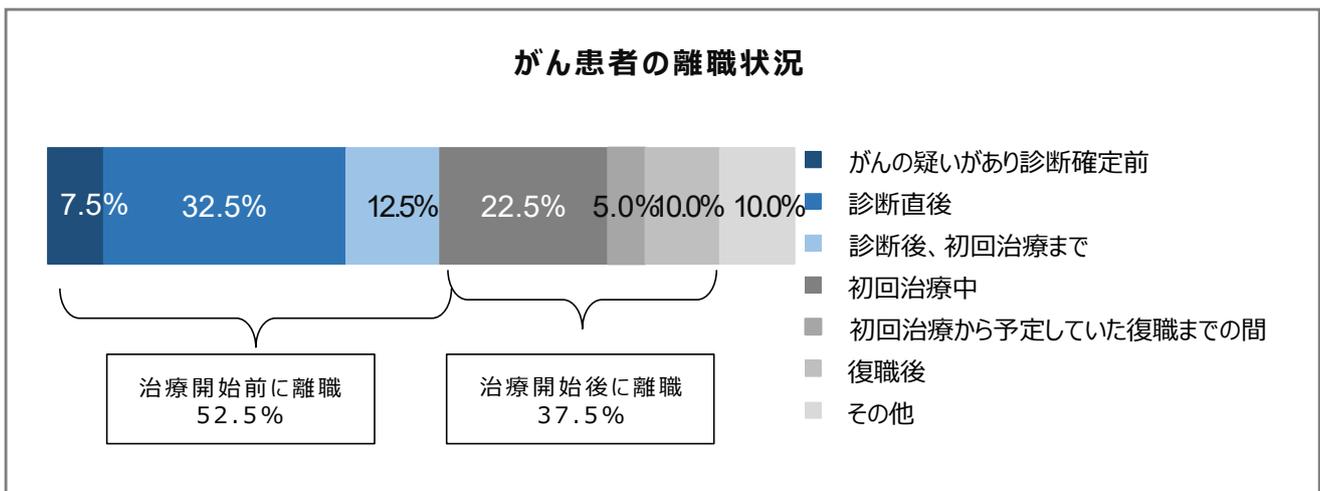
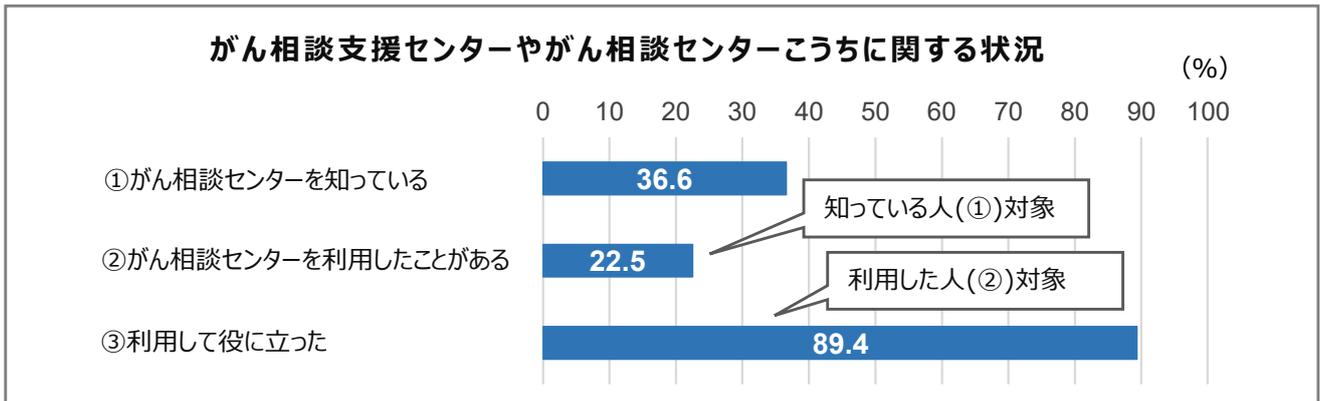
【参考】 がんの年齢調整死亡率 全国平均男女計67.4 男性82.4 女性53.6（令和3年値）

引き続き、禁煙支援やがん教育などの「予防」、がんの早期発見・早期治療に繋げる「検診」受診率向上対策の推進、がん診療連携拠点病院と地域の医療機関の連携による「医療」提供体制の充実に取り組む必要があります。

I 全体目標

(2) がん患者、その家族及び遺族の満足度の向上

目標指標	第2期計画策定時	第3期計画策定時	目標 (令和5年度)	直近の実績値	進捗度
がん患者、その家族及び遺族の満足度の向上	-	-	向上	-	-



総括

- 令和5年度に県が実施した患者満足度等調査では、がん患者のうち7割以上が受けた治療内容に満足していますが、相談支援体制や治療と仕事の両立支援などに課題があります。
- がん患者・家族でがん相談支援センター及びがん相談センターこうちについて知っているのは3人に1人であり、そのうち利用したことがある人の割合は22.5%となっています。
利用したことのない人のうち、58.4%が相談したいことはなかったとする一方で、「何を相談する場が分からなかった」「必要としていたときには知らなかった」とする人が3割程度いるため、周知において改善が必要です。
- がんと診断を受けて退職又は休職した人は24.4%を占めており、退職した人のうち52.5%が初回治療までに退職しているため、治療と仕事との両立支援について情報提供や相談支援を受けることのできる体制整備が必要です。

Ⅱ 個別目標

1 がん予防及び早期発見の推進

(1) がん予防

目標指標	第3期計画策定時 (平成29年度)	目標 (令和5年度)	直近の実績値 (令和4年度)	進捗度
喫煙率	※ 男性 28.6% 女性 7.4%	男性 20%以下 女性 5%以下	男性 27.0% 女性 6.4%	B-
受動喫煙率	※ 家庭 8.5% (ほぼ毎日) 職場 28.9% (月1回以上) 飲食店 38.5% (月1回以上)	家庭 3%以下 (ほぼ毎日) 職場 10%以下 (月1回以上) 飲食店 14%以下 (月1回以上)	家庭 5.0% (ほぼ毎日) 職場 19.0% (月1回以上) 飲食店 9.6% (月1回以上)	B+ (家庭 B+ 職場 B+ 飲食店 A)
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人(1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の者)の割合	※ 男性 16.4% 女性 9.3%	男性 15%以下 女性 7%以下	男性 16.8% 女性 9.6%	D
運動習慣者の割合	※ 20~64歳 男性 20.4% 女性 19.0% 65歳以上 男性 50.0% 女性 38.2%	20~64歳 男性 36%以上 女性 33%以上 65歳以上 男性 58%以上 女性 48%以上	20~64歳 男性 25.5% 女性 21.8% 65歳以上 男性 58.2% 女性 36.7%	B- (20~64歳 B- 65歳以上 男性 A 女性 D)
食塩摂取量	※ 8.8g	8g以下	9.0g	D
野菜摂取量	※野菜摂取量の平均 295g	野菜摂取量の平均 350g以上	野菜摂取量の平均 274g	D
果物摂取量	※果物摂取量100g 未満の人の割合 55.6%	果物摂取量100g 未満の人の割合 30%以下	果物摂取量100g 未満の人の割合 56.6%	D
肝炎検査の陽性者が適切な治療を受けている	-	-	-	-
肝炎陽性者の精密検査受診率	80.2%	90%以上	77.8%	D
子宮頸がんワクチンの接種率	- (積極的勧奨中止)	-	29.9% (R3)	-

※平成28年度数値

【主な取組】

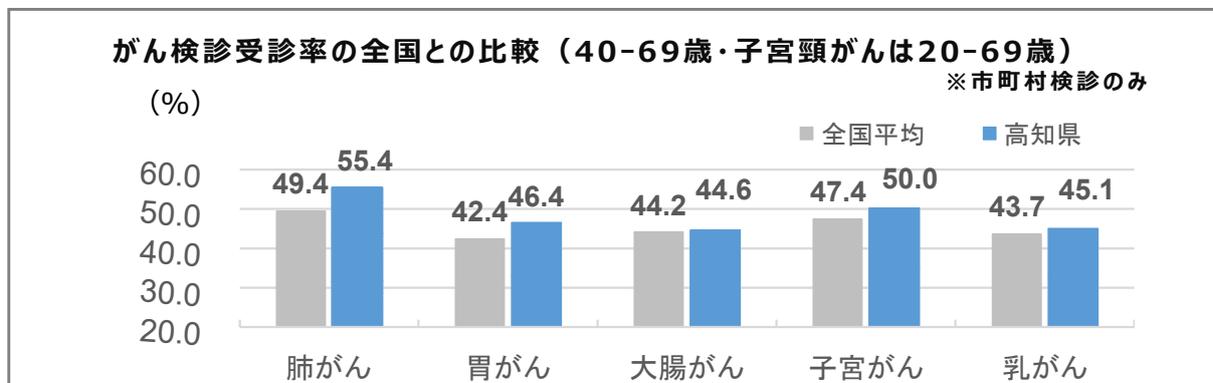
- ・とさ禁煙サポーターズへのフォローアップ講習等の実施
- ・県健康増進計画「第4期よさこい健康プラン21」に基づき、生活習慣の改善を啓発
- ・肝炎医療コーディネーターの養成、肝炎治療費の助成
- ・学校現場へ医療関係者等を派遣するがん教育の実施
- ・市町村から子宮頸がんワクチン対象者への個別通知の実施
- ・県教育委員会等と連携した学校への子宮頸がんワクチンの啓発資材の配布

総括

- 飲酒、食塩摂取、野菜摂取、果物摂取について、計画策定時から改善が見られていないため、県の健康増進計画である「よさこい健康プラン21」に基づき、引き続き普及啓発が必要です。
- 子宮頸がんワクチンについては、令和4年4月から積極的勧奨が再開され、令和6年度まで3年間、キャッチアップ接種が実施されています。接種率は徐々に上がってきているものの、十分とは言えない状況ですので、引き続き、市町村や県教育委員会等と連携した周知が必要です。

(2) 早期発見

目標指標	第3期計画策定時 (平成29年度)	目標 (令和5年度)	直近の実績値 (令和4年度)	進捗度
がん検診の受診率 (算定対象年齢は40～69歳 (子宮頸は20～69歳)) (市町村検診+職域検診)	肺 48.6% 胃 33.5% 大腸 37.4% 子宮頸 35.5% 乳 42.2% (H28)	肺 50% 胃 50% 大腸 50% 子宮頸 50% 乳 50%	肺 54.4% 胃 36.9% 大腸 42.8% 子宮頸 34.1% 乳 45.3% (R4速報値)	B- (肺 A 胃 B- 大腸 B- 子宮頸 C 乳 B-)
がん検診の受診率 (40～50歳代) (市町村検診+職域検診)	肺 55.3% 胃 40.5% 大腸 42.8% 子宮頸 46.7% 乳 50.4% (H28)	肺 維持・上昇 胃 50% 大腸 50% 子宮頸 50% 乳 維持・上昇	肺 59.2% 胃 41.6% 大腸 46.6% 子宮頸 47.4% 乳 51.7% (R4速報値)	B+ (肺 A 胃 B- 大腸 B+ 子宮頸 B- 乳 A)
がん検診の精密検査受診率 (市町村検診)	肺 91.4% 胃 92.7% 大腸 86.5% 子宮頸 69.9% 乳 95.1% (H27)	肺 維持・上昇 胃 維持・上昇 大腸 90% 子宮頸 90% 乳 維持・上昇	肺 90.4% 胃 90.8% 大腸 83.2% 子宮頸 65.7% 乳 94.2% (R4速報値)	C (肺 C 胃 C 大腸 D 子宮頸 D 乳 C)
すべての市町村が精度管理・事業 評価を実施するとともに、科学的根 拠に基づくがん検診を実施する	肺 13市町村 胃 12市町村 大腸 13市町村 子宮頸 14市町村 乳 11市町村 (H27)	全市町村 (29市町村 1広域連合)	肺 26市町村 胃 25市町村 大腸 23市町村 子宮頸 20市町村 乳 23市町村 (R2)	B+ (肺 B+ 胃 B+ 大腸 B+ 子宮頸 B+ 乳 B+)



出典：令和4年国民生活基礎調査（厚生労働省）

【主な取組】

- ・がん検診啓発事業の実施
- ・市町村の個別通知や、検診申込のデジタル化などの受診勧奨策を支援
- ・市町村及び検診機関の精度管理情報を収集し、評価を行うとともに、結果の還元を実施
- ・精密検査実施医療機関リストの作成し、市町村、保険者、事業所等へ周知

総括

- がん検診受診率は、計画策定時と比べて改善傾向にあるものの、肺がん及び乳がん検診を除き、目標の「50%」を達成できていません。引き続き、受診率向上のための啓発活動が必要です。
また、職域でのがん検診について、実施割合や受診者数などを把握する仕組みがないため、職域の実施状況を把握し、課題を整理することが必要です。
- 精密検査受診率については、子宮頸がん及び乳がん検診を除き、計画策定時より減少しています。また、目標の「90%」を達成しているのは乳がん検診のみとなっています。引き続き、精密検査の受診率を向上させるための受診勧奨の働きかけが必要です。

2 がん医療水準の向上

目標指標	第3期計画策定時 (平成29年度)	目標 (令和5年度)	直近の実績値 (令和4年度)	進捗度
すべての拠点病院に手術療法、放射線療法、薬物療法のチーム医療体制を整備する	—	全拠点病院で整備	全拠点病院で整備	A

【主な取組】

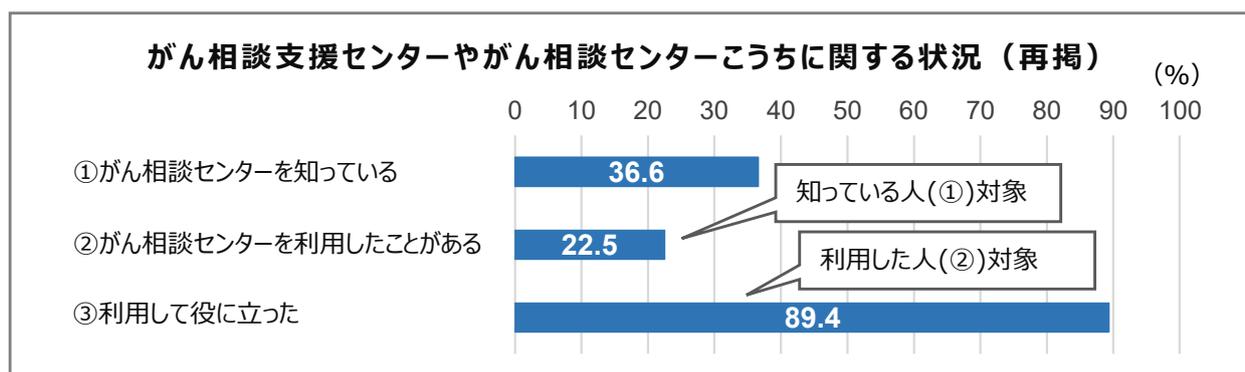
- ・拠点病院等に対して、がん診療連携拠点病院等機能強化事業費補助金の交付
- ・がん医療に専門的に関わる医療従事者の確保・育成
(手術療法・放射線療法・薬物療法・緩和ケア・口腔ケア等)
- ・セカンドオピニオンの普及啓発
- ・小児・AYA世代のがん患者に対する妊よう性温存治療費補助金の交付

総括

- 高知がん診療連携協議会及び各部会において、診療実績の共有や情報交換を進めるなど、連携しながら医療の質の向上に努めています。
引き続き、がん患者が県内どこに居住していても等しく質の高い医療を切れ目なく受けることができるよう、更なるがん医療の充実に向けた取組を進める必要があります。

3 がん患者等への支援

目標指標	第3期計画策定時 (平成29年度)	目標 (令和5年度)	直近の実績値 (令和4年度)	進捗度
がんに関する情報を掲載したパンフレット等を配布する医療機関数	29機関	増加	37機関	A



【主な取組】

- ・資材やホームページ等を活用したがん相談支援センター及びがん相談センターこうちの周知
- ・「がんフォーラム」や市民公開講座の実施による、がんに関する治療や正しい知識等の情報提供

総括

- がん相談支援センター及びがん相談センターこうちの認知度が十分でないため、周知において改善が必要です。高知がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会を通じる等して、情報提供の方法や内容等について検討する必要があります。

4 緩和ケアの推進

目標指標	第3期計画策定時 (平成29年度)	目標 (令和5年度)	直近の実績値 (令和4年度)	進捗度
がん等の診療に携わる医師等 に対する緩和ケア研修の 修了者	安芸 14名 中央 609名 高幡 14名 幡多 65名 県外 2名 合計 704名	すべての二次医療圏で 増加	安芸 39名 中央 873名 高幡 15名 幡多 98名 県外 3名 合計 1,028名	A
がん診療連携拠点病院及び がん診療連携推進病院で がん等の診療に携わる医師等 に対する緩和ケア研修を 修了した者の割合	89% (332/373人) ※3拠点病院の状況	100%	72.1% (269/373人) ※4拠点病院の状況	D

【主な取組】

- ・国の指針に基づいた「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」の開催
- ・高知県がんサポートブックにおける緩和ケアに関する内容の充実

総括

- がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修の修了者は、すべての二次医療圏で増加していますが、拠点病院等における修了者の割合は、目標の達成には至っていません。

引き続き、高知がん診療連携協議会緩和ケア部会を通じる等して、がん医療に携わるすべての医療従事者が基本的な緩和ケアを実施し、その知識や技能を維持・向上できるよう取組が必要です。

5 地域の医療・介護サービス提供体制の構築

目標指標	第3期計画策定時 (平成29年度)	目標 (令和5年度)	直近の実績値 (令和4年度)	進捗度
がん患者の自宅看取率	8.8% (H28)	10%以上	12.9% (R3)	A

6 がん登録の推進

目標指標	第3期計画策定時 (平成29年度)	目標 (令和5年度)	直近の実績値 (令和4年度)	進捗度
地域がん登録医療機関数	132医療機関 (H28)	—	165医療機関 ※H28年1月1日以降 全国がん登録として実施	—
地域がん登録のDCO率	6.6% (H25)	—	—	—